



きらめくドイツ
クリスマス
マーケットの旅

久保田由希

ようこそ本場のクリスマスマーケットへ！

ドイツを中心に18都市37マーケットをご案内

クリスマスマーケットの楽しみ方から、ドイツ家庭のクリスマスの過ごし方まで、
本場のクリスマス文化を、この一冊でたっぷり楽しめます。



きらめくドイツ
クリスマス
マーケットの旅



久保田由希



なぜなら、それは、本物だから

クリスマスマーケットって、何でしょう。

冬に開かれる、イルミネーションがきれいなところ？ 屋台がたくさん並んでいる広場？ そうですね、でもそれだけではないと思います。

11月下旬からひと月の間、ドイツを中心にクリスマスマーケットを旅しました。そして気づいたことがあります。心に残るクリスマスマーケットというのは、ライトアップや派手な演出でできるのではなく、人々の長年に渡る想いによってつくられるのだということ。

太陽がほとんど差さない、暗く厳しいドイツの冬。日々短くなる日の長さ按比例するように、心も沈んでいきます。

クリスマスマーケットが始まるのは、そんな季節。いつもの広場が屋台で華やかに彩られ、焼菓子の甘いシナモンの香りが漂います。それが人々にとって、どれほどの救いになることか。ドイツに暮らす私には、痛いほどわかります。

現代に生きる人にとってみてもそうなのですから、数百年前ならなおさらでしょう。クリスマスマーケットは本来、イエス・キリストが降誕するクリスマスに備えるためのものですが、きっとそれ自体が希望の光であり、人々が強く望んだからこそ、数世紀にも渡って続いてきたのだと思います。

ドイツのクリスマスマーケットが心に残るのは、本物だから。人が何かを信じ、心のよりどころにしてきたものがあるからです。

それは本場でしか感じられないもの。だから、行きましょう。本物のクリスマスマーケットへ。

Inhalt

もくじ

なぜなら、それは、本物だから	3
Karte ドイツと周辺国の地図	6

Kapitel 1

クリスマスマーケットのこと	7
クリスマスはいつからいつまで?	8
アドヴェントとは?	9
クリスマスマーケットとは?	10
クリスマスマーケットの楽しみ方	12
クリスマスマーケットで知っておきたいこと	14
クリスマスマーケットで味わう 食べ物と飲み物	16
クリスマスマーケットで出会える かわいい雑貨	20

Kapitel 2

クリスマスマーケット案内	25
Nürnberg ニュルンベルク	26
München ミュンヘン	36
Rothenburg ローテンブルク	42
Heidelberg ハイデルベルク	46
Gengenbach ゲンゲンバッハ	52
Baden-Baden バーデン・バーデン	56
Konstanz コンスタンツ	60
Stuttgart シュトゥットガルト	64
Dresden ドレスデン	68

Berlin	ベルリン	76
Hamburg	ハンブルク	84
Köln	ケルン	90
Aachen	アーヘン	98
Colmar	コルマル(フランス)	102
Strasbourg	ストラスブール(フランス)	108
Basel	バーゼル(スイス)	112
Praha	プラハ(チェコ)	116
Maastricht	マーストリヒト(オランダ)	120

Kapitel 3

ドイツのクリスマス	125
ドイツのアドヴェントとクリスマス	126

KOLUMNNE

クリスマスマーケットの歴史	15
サンタクロースとクリストキント	34
どれが好き? カップいろいろ	82
そのほかのクリスマスマーケット	122
自家製グリューヴァインのつくり方	124
モミとトウヒの違い	128
簡単な旅行ドイツ語会話	134
Stadtpläne 市街地図	136
おわりに	143

Karte

ドイツと周辺国の地図

今回旅するのは、ドイツとその周辺国の都市のクリスマスマーケットです。





Kapitel 1

クリスマスマーケットのこと

ドイツを中心に、ヨーロッパの冬を彩るクリスマス
マーケット。いつ頃、どこで、どういうふうにか
れているでしょう。会場で体験できるものから、売
っているもの、クリスマスの歴史まで、本場のクリ
スママーケットを楽しむための基本情報をお届け
します。これでマーケットの旅の準備は万全。



❄️ クリスマスはいつからいつまで？

キリスト教にとって1年のうちで重要な行事は、春のイースター（復活祭）と12月のクリスマスです。イースターは十字架にかけられたイエス・キリストが復活したことを祝うお祭りですが、クリスマスはキリストの降誕を祝うお祭りです。しかし本当のところ、キリストが生まれた日は聖書には書かれていません。むしろ聖書をひもとくと、冬ではないと思える記述があるそうです。それなのに、なぜクリスマスがこの時期になったのでしょうか。

12月25日をキリスト降誕の日と決めたのは、4世紀のローマ帝国といわれています。336年と354年には、ローマで12月25日にクリスマスが祝われたことが証明

されています。当時ローマ帝国では太陽神が信仰されており、冬至を過ぎて明るい時間が長くなっていく12月25日は、太陽神の祭りの時期でした。それをキリスト教が取り込んでいったとされています。

12月24日はクリスマス・イヴですが、ヨーロッパでこの日を祝日としている国はわずか。ヨーロッパの多くの国々が、クリスマスは12月25・26日とし、この2日間を祝日と定めています。そして、東方の三博士がキリストの元にたどり着いた1月6日をもって、クリスマスの全期間は終了となります。日本では12月25日の1日だけでクリスマスは終わってしまいますが、ヨーロッパでは年明けの1月6日までずっと続きます。



★ アドヴェントとは？

楽しいお祝いは、誰でも何日も前から心待ちにしているものです。クリスマスにもそのような期間があり、「アドヴェント」と呼ばれています。日本語では待降節（たいこうせつ）といいます。

アドヴェントの期間は約4週間。11月27日から12月3日の間にある日曜日を第1アドヴェントと呼び、その日から始まります。翌週の日曜を第2アドヴェント、翌々週の日曜が第3となり、第4アドヴェントを迎えると、12月25・26日のクリスマスはすぐそこまで来ています。

アドヴェントの間、人々はクリスマスに向けて準備を始めます。街ではクリスマスのデコレーショングッズが売られ、ツリー用の

もみの木マーケット(p.129)が立ち、家庭では、アドヴェントとクリスマスに食べる焼菓子を大量に焼き始めます。

クリスマスマーケットもだいたい11月25日頃からオープンします。ちょうどその頃は、冬至に向けてどんどん日が短くなり、暗い灰色の空のように心も沈みがち。しかし光あふれるクリスマスマーケットが始まり、第1アドヴェントを迎えると、沈んだ心も吹き飛んでしまいます。12月25・26日は、家族水いらずで過ごす静かな時間。その前のアドヴェントが、クライマックスへ向けて心が躍る、楽しい時間だと思いません。ドイツのアドヴェントの過ごし方についてはp.126以降もご覧ください。



☆ クリスマスマーケットとは？

11月下旬になると、それまで普通の広場だった場所に屋台の小屋が建ち、そして光り輝くクリスマスマーケットが始まります。いよいよクリスマスが近づいて来た！と胸が高鳴る瞬間です。いまでは日本の各地でも開かれるようになったクリスマスマーケットですが、本場ではどのようなものなのでしょう。

クリスマスマーケットとは、ツリーやイルミネーションで彩られた場所に、クリスマスグッズやギフト商品、食品を売る屋台が並び、温かい食べ物や飲み物もその場で楽しむことのできるマーケットで、ミニ遊園

地なども併設されています。日本の縁日と物産展を合わせたような、にぎやかで地方色を感じられるお祭りといえば近いでしょうか。

開催期間はマーケットによっても異なりますが、11月25日頃～12月24日頃までが標準的。注意してほしいのは、一部を除いて12月25日にほとんどのマーケットが終わってしまうこと。

ヨーロッパの人々にとってのクリスマスは、日本でいえばお正月のような存在で、家族で静かにゆっくり過ごすものです。クリスマスマーケットは、そうしたクリスマス



に備えるためのものなので、クリスマス前には終わってしまうことが一般的です。ですからクリスマスマーケットの旅は、12月24日まででできるよう、計画をしっかりと立ててください。

マーケットはプレゼントを探す人や、楽しいひとときを求めるファミリー、観光客でにぎわいます。日が暮れると会場の明かりが灯って美しくなるせいか、さらに混雑します。バーに行く代わりに屋台で温かいグリューヴァインを飲む人々も。手足がかじかむ氷点下でも、やはりこの季節はマーケットで過ごしたいものなのです。

ところで、冬に屋台や遊園地があればクリスマスマーケットになるのかといえば、私はそうは思いません。

今日では、クリスマスマーケットは商業化しているという批判もあります。もし本当にそうならば、そこにはショッピングセンターのような雰囲気しかないことでしょう。しかし実際にその場に来ると、希望や喜びが感じられます。それは数百年にも渡る、人々の想いや願いが築き上げたもの。それがあってこそ、真のクリスマスマーケットになるのだと思います。

❄️ クリスマスマーケットの楽しみ方

せっかく本場のクリスマスマーケットを訪れるのなら、心ゆくまで存分に楽しみたいですね。具体的なポイントをいくつかご紹介しましょう。

クリッペ

キリスト降誕の様子を表現

人形などを用いてキリスト降誕シーンを表現したもので、クリスマスマーケットでは必ずどこかで見つかります。聖書によれば、マリアはベツレヘムの家畜小屋でイエス・キリストを産んだとされています。ですからクリッペ全体は家畜小屋で、小屋の中央にはわらを入れておくための飼い葉桶に寝ている生まれたばかりのキリストとマリア、ヨセフ、家畜たちが配置されています。マーケットによって本物の家畜がいたり、モダンな彫刻だったり、違いが楽しめます。



屋台

グッズからドリンクまで

屋台はマーケットのいちばんのお楽しみではないでしょうか。屋台は大きく①クリスマスグッズ、ギフト商品、防寒用品、食品などの商品、②その場で食べるフード、③その場で飲むドリンクに分けられます。会場の美しいデコレーションを眺めながらぶらぶら歩き、身体が冷えてきたら温かい食べ物や飲み物で暖を取りましょう。エリーゼン・レープクーヘン (p.17) はその場で食べることもありますが、シュトレレン (p.17) は包装されているので、持ち帰るのが普通です。

